

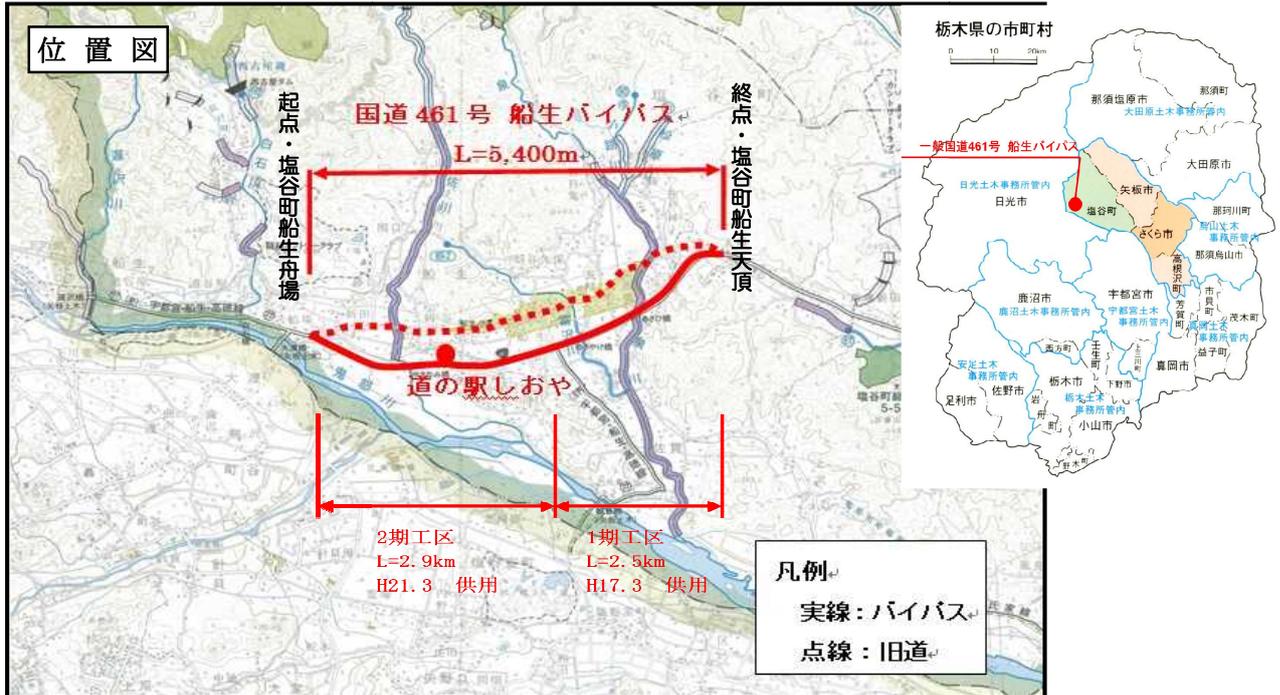
道路事業

一般国道461号 ^{ふにゅう}船生バイパス (平成21年3月供用)

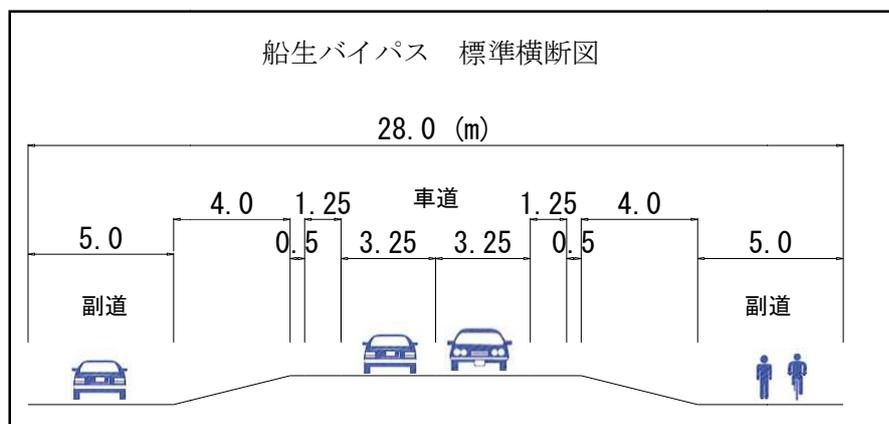
1 事業概要

一般国道461号は、日光市を起点に茨城県日立市に至る延長約135kmの幹線道路であり、本県北部においては地域の産業・経済活動を支える道路として重要な役割を担っています。

船生バイパスは、塩谷町 ^{ふにゅう}船生地内の ^{ふなば}舟場から ^{てんちよう}天頂までの5,400m区間において、バイパス整備を行うものです。



- ◆事業名：国庫補助道路改築事業
- ◆事業箇所：一般国道461号 船生バイパス (塩谷町船生舟場～同町船生天頂)
- ◆事業主体：栃木県
- ◆全体延長：5,400m
- ◆幅員：28.0m (車道6.5m、副道5.0m両側) 暫定2車線
- ◆総事業費：約40億円
- ◆事業期間：平成10年度～平成20年度



2 事業の目的・必要性

本事業区間は、車道幅員の狭小区間や屈曲部が多く、交通の隘路となっており、一般県道宇都宮船生高德線との交差点付近の一部区間が事故危険箇所にも指定されているなど、交通事故が多発し、また自動車の走行性も悪く、広域交通のボトルネックとなっていました。

このため、栃木県では「安全で円滑な交通の確保」「生活環境の改善」「防災機能の向上」「歩行者・自転車利用者の安全確保」を目的に、平成10年度よりバイパス整備に着手し、平成17年3月に1期工区として、主要地方道宇都宮船生高德線より東側約2.5km区間を供用しました。更に残り区間の整備推進を図り、平成21年3月に全線区間を供用しました。

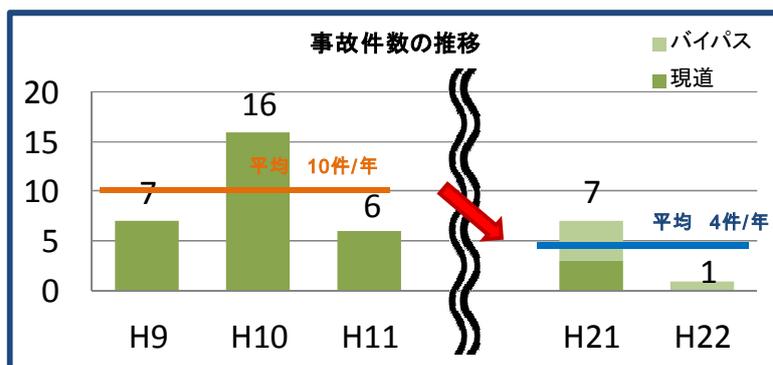
3 事業の整備効果等

<費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化>

- ・事業費 再評価時 約40億円 → 完成時 約40億円
- ・事業期間 再評価時 平成10年度～平成21年度 → 完成時 平成10年度～平成20年度
事業期間短縮の理由：用地取得の先行

<整備効果>

【事故件数の推移】



【自動車交通量】

整備前 (H17 道路交通センサス)

現道	6,777 台/12時間
[内 大型車]	1,057 台/12時間

整備後 (H24.5.16)

現道	1,968 台/12時間
[内 大型車]	105 台/12時間
バイパス	6,182 台/12時間
[内 大型車]	857 台/12時間
総交通量	8,150 台/12時間
[内 大型車]	962 台/12時間

- バイパス交通が9割以上を占め、通過交通がバイパスに転換しています。
→道幅が広く、見通しの良いバイパスに交通が転換したことで、事故件数が減少した。
- 大型車等9割以上がバイパス利用となり、現道は生活道路となっています。

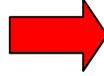
「安全で円滑な交通の確保」「生活環境の改善」が図られました。

【状況写真】

整備前（現道）



整備後（現道）



整備後（バイパス）



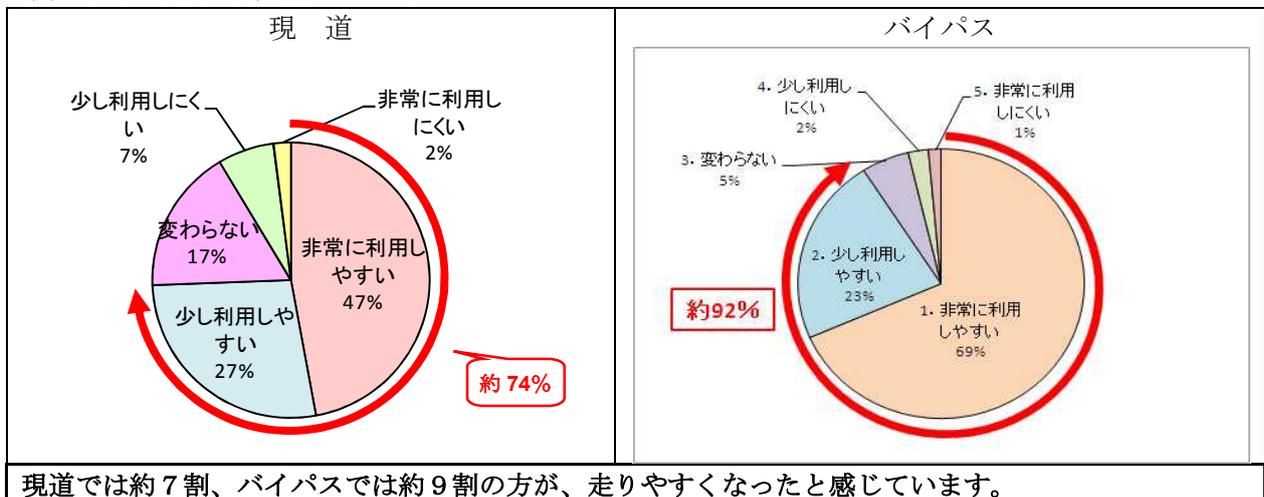
- 宅地連担・幅員狭隘区間を避けることによって、第1次緊急輸送路の「防災機能の向上」が図られました。
- 通過交通が転換されることにより現道を利用する「歩行者・自転車利用者の安全が確保」されました。

4 地元の声

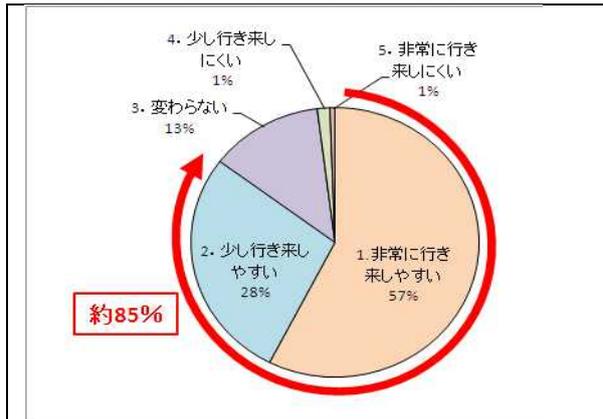
一般国道 461 号船生バイパスの整備により、生活や環境などにどのような変化があったかを確認するために地域住民や企業、学校などにアンケート調査を実施しました。

(回答数/配布数：390/640 件 回答率：61% ※有効回答数は設問により異なります。)

(1) 車での走りやすさについて

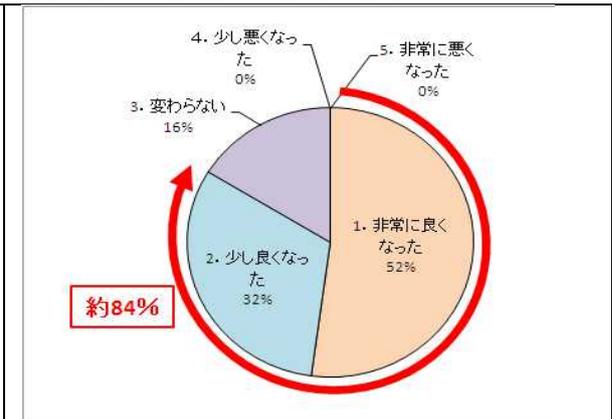


(2) 矢板・日光鬼怒川方面への利便性



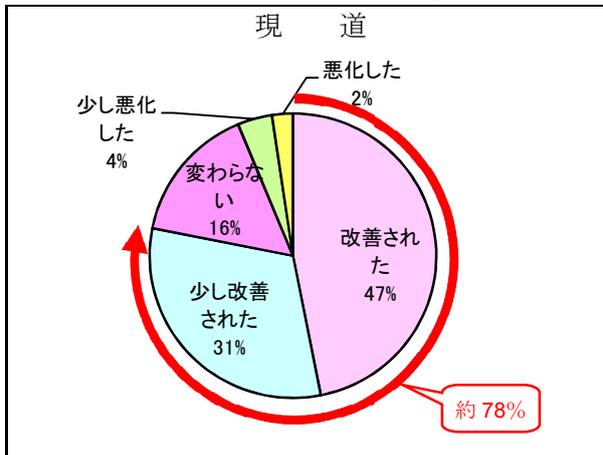
約9割の方が、目的地へ行きやすくなったと感じています。

(3) 輸送・業務での効率の変化について



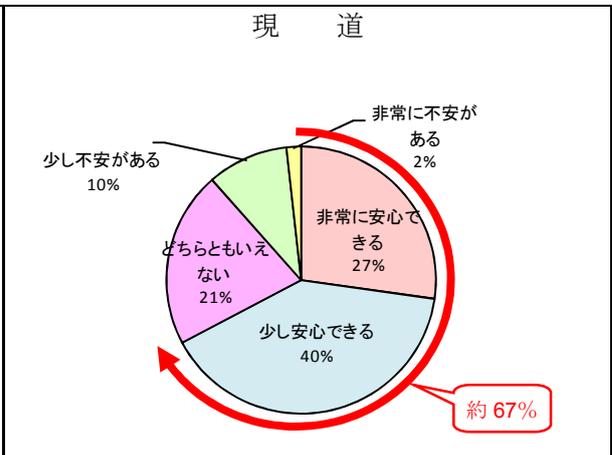
約8割の方が、効率が良くなったと感じています。

(4) バイパス開通後の現道沿道環境の変化



約8割の方が、沿道環境が改善されたと感じています。

(5) 交通安全に対する安心感について



約7割の方が、安心できるようになったと感じています。

(5) 自由意見

- ・現道の交通量が減ったので、交通安全の向上になった。(50代 男性)
- ・移動時間が短縮され、時間に余裕が出来た。歩行者、自転車等が安心して通行できる。(40代 男性)
- ・見通しが良い反面スピードを出す車が多くなった。(60才以上 男性)
- ・ゴミの放置が、バイパス及び主要道路で大幅にふえた。(60才以上 男性)
- ・本線と副道との間の雑草の手入れをしてほしい。(50代 男性)
- ・歩行者、自転車の幅員5.0mもあるのに夜間の利用では、かなり暗いので照明灯をつけて欲しい。(60才以上 男性)

5 事業による環境変化

特になし

6 事業を巡る社会経済情勢の変化

- ・平成24年6月23日 道の駅「湧水の郷しおや」オープン(来館者数 75,000人/月(H24.7.22現在))

7 今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性

交通量調査やアンケート調査結果により、事業の目的である「安全で円滑な交通の確保」「生活環境の改善」「防災機能の向上」「歩行者・自転車利用者の安全確保」は図られています。

このため、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないと考えています。

8 同種事業への反映

本事業については、十分な効果を確認することができたとともに、アンケート調査では、更なる利便性向上の要望等、幅広い視点から多くの貴重なご意見等を頂きました。今後、バイパス事業の計画策定や工事の実施、供用後の維持管理等に役立てて参ります。

栃木県では、今後も県民の皆様のご意見をお聞きしながら、より良い道路行政の推進に努めて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

栃木県 県土整備部 道路整備課

T E L : 028-623-2411 F A X : 028-623-2417
H P : <http://www.pref.tochigi.lg.jp/h04/index.html>
E-mail : doro-seibi@pref.tochigi.lg.jp

